



天王みどり学園高等部の就労に向けた取組について

本校では、発達段階や生活年齢に考慮し、小学部入学から高等部卒業までの全ての段階で進路指導が行われています。本校では「天王みどり学園 キャリア教育全体計画」に基づき系統的に指導しています。毎日の学習や経験は、卒業後の生活につながっています。

キャリア教育における目指す姿			
各学部段階	小学部	中学部	高等部
職業発達段階	基本的な生活習慣の確立と人と関わる力の育成	社会生活能力の育成と自己表現力の育成	自己理解の深化と社会への移行準備
人間関係形成 ・ 社会形成能力	自分の意思や気持ちを伝える。穏やかに他者に働き掛けたり、働き掛けを受け入れたりして人と関わる。	適切な表現方法で伝えたり、相手の考えを受け入れたりしながら目標を共有しやり遂げる。	多様な相手と適切に関わり自分の役割を果たし協同して活動する。
自己理解 ・ 自己管理能力	遊びや集団生活を通して、日常生活上の基本動作や習慣を身に付ける。	集団の中で感情や行動を自己統制しながら、自分の長所を生かして活動する。	社会規範やマナーを守り自分の行動や感情を律し、成長のために自分から進んで行動する。
課題対応能力	興味・関心を広げるとともに、自分の好きなことややりたいことなど自分で選んだり、決めたりして最後まで取り組む。	手がかりをもとに自ら考え選択・決定したことの達成に向けて努力する。	現状を改善する方策を自ら考え計画、実行し課題解決する。
キャリアプランニング能力	学校や家庭でできる係や手伝いなどの役割に進んで取り組む。	学校生活や家庭生活上での自分の役割が分かり、係活動や手伝いなどに責任をもち継続して取り組む。	「働くこと」の意義と社会の一員としての役割を自覚し、 <u>自分の進路を主体的に選択・決定する。</u>

※本校キャリア教育全体計画より抜粋

高等部では、自分の進路を主体的に選択・決定することに向けて、次のように進めています。

1年生では、どんな仕事があり、どんな福祉サービスがあるか知るため、職場見学や校内実習と現場実習を行います。

2年生では、本人の希望や適性を探るため2回の現場実習を行います。昨年の成果や課題を振り返り自分で目標を決め実習に臨みます。

3年生では、本人の適性と希望を照らし合わせ、進路先を絞っていきます。そして、現場実習や個別実習での評価などを基に、生徒や家族の希望と受け入れ先事業所の意向をすり合わせて進路を決定していくことになります。



銅線への切り込み入れ



開店前の準備



惣菜のパック詰め

本校高等部では、「職業に係る見方・考え方を働かせ、職業など卒業後の進路に関する実践的・体験的な学習活動を通して、よりよい生活の実現に向けて工夫する資質・能力」を育む「職業」の授業を週3時間設定し、実施しています。

3年生の一般就労を目指すグループの1年間の学習内容を紹介

- 4月 卒業までのビジョン
 - ・就職に向けての一年間の流れ
 - ・卒業後になりたい自分
 - ・日々の実践目標の設定
- 5月～6月 現場実習について
 - ・目標設定
 - ・こんな時どうする？（働いている時に急に体調が悪くなってきた）
（分からないことがあって質問したいけれど皆さん忙しそう）など
 - ・実習の反省、今後の目標
- 7月 求職登録に向けて
 - ・ハローワークについて
 - ・求人票の見方・書き方
 - ・就労希望条件
 - ・求職登録
- 8月～9月 社会人に向けて～こんな時どうする～
 - ・困ったときの対処法
 - ・アンガーマネジメント
 - ・ストレス対処法
- 10月～11月 就職、入社試験に向けて
 - ・自己分析
 - ・履歴書記入
 - ・面接練習
- 12月～2月 社会人に向けて～生活について～
 - ・いろいろな危険を防ぐ方法（消費者生活センター講話など）
 - ・地域の相談機関、関係機関について（ハローワーク、就業・生活支援センター）
 - ・給料の使い道
 - ・障害基礎年金について（社会保険・雇用保険）



「こんな時どうする？」の学習の一部を紹介

現場実習へ行く前に、実際に働いているときに起こりそうなことについて、どのように行動するとよいかを生徒間で付箋紙を使って意見交換しながら、自分ができそうな対処法を見つける学習をしました。

<実習中、急に体調が悪くなったら…>

「～なので、少し休憩してもいいですか」と聞く。

実習先の人にすぐに相談する。

「具合が良くなりませんので、学校に相談してもいいですか」と聞く。

「すみません。具合が良くなりました。ありがとうございました。」と伝える。

<分からないことを聞きたいけれど、>

「お仕事をすみません。分からないことがあったので質問してもいいですか」と聞く。

皆さん忙しそう…>

少し待ってみる。待っていても忙しそうだったら、聞く。

聞かなくてもできる作業をやる。

外部専門家の専門的な見地による支援

学習指導要領解説自立活動編では、「自立活動の個別の指導計画の作成や指導に当たっては、専門の医師及びその他の専門家との連携協力を図り、適切な指導ができるようにする（第7章自立活動の個別の指導計画の作成と内容の取り扱い）」とあります。本校では自立活動の指導に生かすため、秋田大学及び医療機関に所属する作業療法士(OT)、理学療法士(PT)、言語聴覚士(ST)の計3名に「外部専門家」として来校いただき、専門的な見地による授業参観と指導助言の機会を設けています。

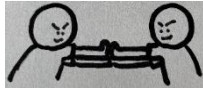
外部専門家の専門的な見地による、教育環境や手立ての改善事例をいくつか紹介します。

「落ち着かず、頭や顔を打ち付けようとする
ことがある」

〔作業療法士 (OT) より〕

感覚の調整が難しく、感覚刺激を求めている。
→固有受容覚（身体の位置や動き、力の入れ具合などを感じる感覚）の刺激を補う遊びや関わりが有効。

例) カ比べ (イラスト※イメージ)



〔助言を受けて〕 実態把握が深まりました。また、担任は普段から刺激を補う関わり方をしており、手立ての評価につながりました。

「腕を上げる運動(ストレッチ)の配慮を知りたい」

〔理学療法士 (PT) より〕

円背(猫背)の場合、一般的に手が上がりにくい。また、手の平を床と平行でなく垂直にした方が上がりやすくなる。(写真※イメージ)



→本生徒は立位の方が手の上がり具合がよい。言葉を掛け、本人の動きに合わせて後ろから介助するとよい。

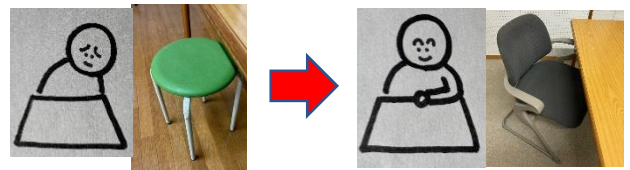
〔助言を受けて〕 本人の実態に合わせた介助の仕方や配慮を知ることができました。

「側わんがあり、食事のときに上体が左に傾いてくる様子がある」

〔作業療法士 (OT)・理学療法士 (PT) より〕

体幹と左腕をサポートする椅子等で環境を整えることが有効。

→背もたれのある椅子に替える。また、左ひじがテーブルに置けるように椅子を斜めに設置する。



〔助言を受けて〕 それまで食事時間の後半では傾きが大きくなっていましたが、環境を整えることで食事をとりやすい姿勢を維持する姿につながりました。



秋田県立支援学校天王みどり学園

TEL:018-870-4611 FAX:018-870-4612

教頭:佐川 透 教育専門監:小野 直子 支援部:遠藤 美和子

特別支援教育地域センター(男鹿市立船川第一小学校内):月・水・金

TEL:0185-24-3231

特別支援教育アドバイザー〔小松 美幸〕